

クリスマスの喜び

クリスマスはご存知の通り**イエス・キリストの誕生**を祝う祭りです。キリスト（救い主の意）の誕生した年を元年として歴史を数える西暦で今年は2016年ですから、キリストは2016年前に誕生したことになりますが、正確な誕生年月日はよく分かりません。場所は今のイスラエルの小さな田舎町**ベツレヘム**の宿屋の**家畜小屋**でした。

ベツレヘムの野原で、夜通し羊の群れの番をしていた**貧しい羊飼**たちが、天使から救い主の誕生を告げられました。「あなたがたは、布にくるまって**飼**い葉桶の中に寝ている**乳飲み子**を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである」

飼い葉桶の中に寝かされている乳飲み子なのですから、母親は家畜小屋でその子を出産したのでしょう。戦乱の巷ならいざ知らず、家畜小屋で生まれる子など滅多にいません。それなのにこの**最も貧しいイエスの誕生**が、昔から世界中で祝われてきました。ですからクリスマスのテーマは**貧しさ**です。

ローマ政府の命令で、**人口調査**が行われることになり、人々は皆出身地で住民登録をすることになりました。ヨセフは身重のマリアをロバの背にのせて、ナザレからベツレヘムの町に来ましたが、宿屋はどこも満員。仕方なしに**家畜小屋**に泊めてもらうことになりました。するとマリアはそこで男の子を出産し、嬰兒は飼い葉桶に寝かされたのです。

マリアはどんなに不安だったことでしょうか。**ヨセフ**は妻子に十分なことをしてやれない自分の不甲斐なさに、やるせない腹立ちを抱えていたことでしょう。しかし世界中で歌われているクリスマスの讃美歌「**きよしこの夜**」はこう歌っています。

きよしこの夜 星はひかり 救いのみ子は ねむりたもういとやすく
きよしこの夜 み子の笑みに 恵のみ代の あしたの光 かがやけり
ほがらかに

汚い飼い葉桶のベッドでも、**イエス・キリスト**は笑顔を見せて、**安らかに眠っています**。豊かな**恵みと希望の光**が輝いていますという讃美歌です。

ところがこの侘しい家畜小屋に、突然にぎやかな声と共に、野原で羊の番をし

ていた**羊飼**たちが、誕生祝いに来てくれました。天使の御告げを聞いて訪ねて来たのです。**彼らの服**は毎日野原で羊の世話をしているので、汚れていて**さぞ臭かった**ことでしょう。普通の民家でも嫌われて内に入れてもらえなかったに違いありません。しかし家畜小屋でしたから、飼葉桶の救い主を取り囲んで礼拝し、**神を賛美**することができました。

もしも都の**王宮**で救い主が誕生していたら、羊飼たちは近づくことが出来ませんでした。**豊かな者だけに囲まれた救い主**で終わったでしょう。ところが東の国で豊かに暮す博士たちは、星に導かれて遠路はるばるやって来て、この貧しい救い主を探し出し、高価な贈り物を捧げて拝みました。豊かな者でも**謙遜な心**さえあれば、**貧しい救い主**に会うことができたのです。

村大工のヨセフとマリアは**ささやかな幸せ**を願っていましたが、でも神の御心を示された時、自分の願いを捨てて**神に従う決心**をしたのです。すると、神のお役に立ちながら、幸せに生きていくことができました。神の道には備えがあるのです。

「この人を見よ」

馬ぶねの中に 産声あげ 大工の家に 人となりて
貧しきうれい 生くる悩み つぶさになめし この人を見よ

食するひまも うちわすれて しいたげられし 人をたずね
友なきものの 友となりて 心くだきし この人を見よ

すべてのものを 与えしすえ 死のほか何も むくいられで
十字架のうえに あげられつつ 敵を赦しし この人を見よ

この人を見よ この人にぞ こよなき愛は あらわれたる
この人を見よ この人こそ 人となりたる 活ける神なれ

イエス・キリストの生涯を实によく現している**讚美歌**です。
クリスマスを通して、キリストの呼びかけをお聞き下さいませんか。 **教会のクリスマス礼拝**をご案内いたします。